



IUFRO-J NEWS

No. 55 (1995.6)

近づく IUFRO 第 20 回世界大会

1995 年 8 月 7 日～12 日 (大会: 講演, 分野別セッションなど)

1995 年 8 月 12 日～19 日 (エクスカージョン, 4～8 日間)

5年に一度の一大イベントである、世界大会が近づいてきました。参加を予定している方々の中には、提出するペーパーやポスターの準備も終え、そろそろ旅行の支度にとりかかっておられる方もあることでしょう。大会が開かれるタンペラ市は、フィンランドの工業の中心地として栄えた、自然とも調和した美しい近代都市です。会議場はホテルからも近く、これまでで最大規模とみられる参加者に対して、必要なサービスを提供するのに十分な広さと機能を備えています。大会の後には、北部のラップランド高原の周辺や南部の湖沼地帯、あるいは周辺諸国の森林地帯へとバラエティに富んだエクスカージョンのコースが用意されています。世界中から集まる森林・林業・木材分野の研究者との交流を深め、また北欧諸国の文化と接するまたとない機会になることでしょう。大会の日程は次ページの表のとおりですが、今回の

大会ではプロシーディングスの発行などに関して、従来
の大会と若干異なる点がありますので、以下簡単に紹介
しておきます。あらかじめご承知おき下さい。

●プロシーディングスの発行

*招待論文の要旨および展示ポスターの要旨のみ
が掲載される。配布は大会前。二分冊 (Vol. I:
招待論文要旨, Vol. II: ポスター要旨)。

●コンgresレポートの発行

*基調講演とプレナリーおよびサブプレナリー
セッションの講演内容、ならびにボランティア
論文の著者名とタイトルの一覧が掲載される。
大会後に発送。

大会への参加が、研究の発展にむけた意義深いもの
なることを、お祈りいたします。

IUFRO 20th World Congress-Tampere, Finland

(7-12 August 1995)

Timetable

	Monday 7/8	Tuesday 8/8	Wednesday 9/8	Thursday 10/8	Friday 11/8	Saturday 12/8		
8 : 30		Plenary Keynote	Plenary Keynote	Plenary Keynote	Plenary Keynote			
9 : 00								
9 : 30	Opening Plenary Session incl. Keynote Address	Div Sess. 1, 3, 5	Congr Gps 2, 4, 6	Sub- Plenary Sessions	Div Sess. 2, 4, 6	Congr Gps 1, 3, 5	Sub- Plenary Sessions	Closing Ceremonies
10 : 00								
10 : 30								
11 : 00								
11 : 30		Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch		
12 : 00	Lunch							
12 : 30								
13 : 00		Poster Session	In- Congress Tour	Poster Session	6 Inter- Divisional Sessions and Congress Groups			
13 : 30								
14 : 00	Sub- Plenary Sessions	Congr Gps 1, 3, 5	Div Sess. 2, 4, 6	Congr Gps 2, 4, 6	Div Sess. 1, 3, 5		Depart for Post- Congress Excursions	
14 : 30								
15 : 00								
15 : 30					Break			
16 : 00	Break	Break		Break	Congress Groups All Divisions			
16 : 30	6 Inter- Divisional Sessions and Congress Groups	Congress Groups All Divisions		Congress Groups All Divisions				
17 : 00								
17 : 30								
18 : 00					Break			
18 : 30	Break	Break		Break				
19 : 00								
19 : 30	Welcome Reception	Satellite Meetings		Satellite Meetings	Farewell Party			
20 : 00								
20 : 30								
21 : 00								
21 : 30								
22 : 00								

1994年 IUFRO-SPDC, バイオ・リフォル (熱帯林再生研究者連合) マレーシアワークショップに参加して

森林総合研究所 石井克明・櫻井尚武
東京大学 則定真利子・鈴木和夫

1. はじめに

本誌 No. 51 にバイオ・リフォルの前回のワークショップ (1993年 ジョグジャカルタ) について紹介させていただいた。そこでは熱帯人工造林, 増殖, 菌根菌の3部会がもたれるワークショップが開催された。更に, 1994年には, 第3回目のワークショップがマレーシア・ペルリス州の州都のカンガルにて開かれた。ワークショップ参加者はマレーシア, 日本, イギリス, オーストラリア, 中国, ベトナム, タイ, フィリピン, インドネシア, オーストラリアの10カ国約170人であった。現地視察の機会もあったので, ここに御報告させていただく。

2. ワークショップ

バイオ・リフォルとは *Biotechnology Assisted Reforestation Project* の略で, バイテク利用の森林再生の意味で, 主に東南アジアの熱帯林での人工造林技術へのバイテク利用研究者の集まりである。日本の外務省が IUFRO-SPDC (国際林業研究機関連合-途上国特別計画) へ毎年補助金を拠出しているのので, その活動の一環として, バイオ・リフォルワークショップが毎年開かれることになった。今回のテーマは "A meeting of experts of Bio-Re/afforestation in the Asia-Pacific Region" である。

今回は, 11月28日の参加登録から30日までマレーシアのペルリス州のベンス・トラベロッジというホテルで行われた。まだ, 新築したてのペルリス州で最も高層と思われる建物だった。周りは, 石灰質の烏帽子状の小山がいくつか望めるが, ほぼ平坦な農業地帯である。ここは, 首都クアラルンプルから飛行機でアロースターまで1時間, そこからバスでまた1時間程の, マレー半島の北端にある州でタイとの国境沿いにある。稲作やマンゴー作りが盛んであるが, 漁業が大きな収入源となっているという。聞くとよれば, ペルリス州で国際会議が開かれるのは初めてであるということで, 州知事も

出席するなど大変地元の熱の入ったワークショップとなった。

29日朝9時からの開会式 (写真-1) では, 今回の会議のホスト機関となった, FRIM (マレーシア森林研究所) の所長で IUFRO の会長でもあるサレーの挨拶にはじまり, マレーシア日本大使館の沢山, SPDC コーディネーターのブライアン・ペイン, バイオ・リフォル理事の小川真より歓迎挨拶があった。最後にペルリス州知事 Abdul H. Pawanteh の開会演説があり開会式を終えた。

ティータイムの後は, 基調講演が行われた。前半はサレーの座長により, マレーシア国立大学の M.N. ノルマによる「バイテクの最近の進歩と林業における潜在力」と題しての熱帯地域の林木育種における最近の技術の進歩とその応用の現状の紹介, 半島マレーシア森林局のタイ・シー・キアムによる「マレーシアにおける植林」と題してのマレーシアにおける造林技術のたどった道の解説の二つの基調講演があった。昼過ぎには, 東京大学の鈴木和夫が座長となり, 住友林業の小林紀之による「熱帯林再生のための共同研究の展開」と題する日本の産官学共同の熱帯林再生研究活動についての紹介とサレーによる「再造林: フタバガキ科森林の創造」と題する在来樹種の造林の必要性を説いた基調講演も行われた。

その日の夜は, 州知事の主催による晩餐会が開かれ



写真-1 開会式の様子

た。こちらでは、VIP が参加した場合は特に、回教の教えからアルコールは普通このような席には出ないのがやや寂しかったが、パティック衣装も鮮やかな華やいだ雰囲気であった。200人近い参加があったように思われたが、一部ベルリス州の州議会関係者、公務員や事業家等も招待されていた。

30日は「熱帯地域の人工造林」、「熱帯樹の増殖」、「アジア-太平洋地域の菌根菌」の3分科会に分かれての講演会がもたれた。

熱帯人工造林の分科会では、櫻井尚武とFRIMのラザク・アリが座長となり「サラワクの泥炭林の再生」(ハリム・ハッサム, LCDA, マレーシア), 「サバにおける人工造林」(A.M. ハムザニ, イノブリス, マレーシア), 「東カリマンタンのスプル地域でのフタバガキ科の試験植林」(スニョトラ, クタイ木材, インドネシア), 「ベトナムで植栽されている数種の成長モデル」(N.H. ツアトラ, ベトナム), 「*Leucaena leucocephala* と混植された南洋スギの成長」(ハシム・ノル, FRIM, マレーシア), 「採掘後の砂地に植栽された *Acacia auriculiformis* と *A. mangium* 実生の成長と光合成」(L.H. アングラ, FRIM, マレーシア), 「半島マレーシアでの *Hopea odorata* Roxb. の残存林分と植栽林分での遺伝的多様性」(R. ウイックネスワリら, FRIM, マレーシア)「海南島でのフタバガキ科樹木の概要」(フ・グオアイ, 中国), 「マツ樹林下に植栽した *Shorea macrophylla* の6年間の成長と生存率」(ラシップ・ガニラ, FRIM, マレーシア), 「ベトナム北部の人工林および天然林の収獲予想」(インドネシア南スラウェシ, ソロアコ P.T. インコ社のニッケル採掘地の植生回復」(Y. セチアジ, インドネシア, ボゴール農科大), 「高湿熱帯での人工林の肥培」(スリヤント, インドネシア, ガジャマダ大) の12題の発表があった。

増殖の分科会では、午前中はFRIMのアジア・ユソフ嬢が座長となって、「種子技術とその植林での役割」(H. F. チン, マレーシア農科大学), 「熱帯林植林のための苗木の生産」(カミス・アワング, マレーシア農科大学), 「ファルカタリアの組織培養」(石井克明ら, 森林総研), 「フタバガキ科のシュートとカルス培養の成長に対する糖の影響」(井出雄二ら, 東京大学), 「数種のフタバガキ科樹種の無性繁殖の2つの異なる方法についての予報」(M.T. ポリスコ, ERDB, フィリピン), 「チークのクローン増殖での最近の進歩」(オリビエ・モンテウイス, CIRAD-FORET/ICSB, マレーシア), 「東南アジア熱帯低地林に分布する *Shorea* 属樹木の人工造林」(M.I.J. ウンボ) の発表があった。午後は石井克明の座長で「数種

の熱帯樹のマイクロプロパゲーション」(アジア・ユソフら, FRIM, マレーシア), 「*Shorea roxburghii* の組織培養」(中村健太郎ら, 住友林業), 「難貯蔵性樹種々々の可能性のある新貯蔵技術」(マルザリナ・マンソール, FRIM), 「*Octomeles sumatrana* の無性繁殖の改良法」(ユスリン・ユソフ, CIRAD-Foret, フランス), 「フタバガキ科のクローン選抜」(ジャン・ディック, 陸園研究所, イギリス)「挿し木による *Khaya ivorensis* 改良苗木の大量増殖」(ロックマル・ヌガラ, FRIM, マレーシア), 「フタバガキ科の無性繁殖」(山本義実ら, コマツ研究本部) らの発表があった。

また、菌根菌の分科会では、小川貞とFRIMのザカリア・イブラヒムが座長となって「マレーシア人工造林地での菌根菌研究」(S.S. リー, FRIM, マレーシア), 「菌根菌とその熱帯林業での役割」(A. ハシム, マレーシア農科大), 「造林木における共生菌」(P. ダート, クイーンズランド大, オーストラリア), 「*Hopea odorata* の成長への有機物, 磷酸塩, 菌根菌接種, 被陰の影響」(スバルディ, ガジャマダ大, インドネシア), 「プロトプラスト培養で得られた *Scleroderma dictyosporum* の *Shorea selanica* と *Shorea leprosula* 挿し木苗木への成長促進効果」(スプリヤントら, ボゴール農科大, インドネシア), 「ラトゾル土壌へのVA菌根菌と磷酸肥料処理のマメ科飼料植物の乾物量に及ぼす影響」(D.R. ルキワニら, インドネシア), 「*Hopea odorata* の土壌生物肥料に対する反応」(Z. イブラヒムら, FRIM, マレーシア), 「フタバガキ科苗木の菌根形成と窒素固定菌」(J. 菊池ら, 関西電力)「育成林業での栄養循環とその役割」(H.M. アミルら, FRIM, マレーシア), 「マンガンおよび低pHに対する *Acacia mangium* の懸濁培養細胞の反応」(Y. 斉藤ら, 東京大学), 「苗畑及び野外植栽でのフタバガキ科雑樹に接種された2系統の *Pisolithus tinctorius* の拮抗関係」(Y.S. チャンら, FRIM, マレーシア) の11題の発表があった。

この日は、バイオ・リフォル主催の送別の宴がホテルのプールサイドで行われた。最初にサレーの印象的な挨拶があり、またバンドの生演奏と参加者の自慢の喉が披露される場面があった。

3. エクスカーション

29日の午後には、皆でバスに分乗して、更に30キロ程北部のタイ国境近くのマタ・アイルにあるFRIM支所(写真-2)の実験地へ見学に出かけた。ここでは、マレーシアでは珍しく主にチークの人工造林についての試験研究が行われていた。最初に支所の概要の説明を受け



写真-2 マタ・アイルのFRIM支所



写真-5 チークの芽接ぎ



写真-3 チークの穂取りのための木登り



写真-6 JICA 複層林試験地



写真-4 チークの試験造林地

た後、チークの穂取りや、芽接ぎ、スタンプ苗の育苗、試験植林地等を見学した(写真-3, 4, 5)。試験地内には、アフリカンマホガニー、南洋スギ、コーヒーノキ、竹の試験造林地もあった。

12月1日は、大型バスに乗って朝から半島を南下し、まず、クアラ・セプタングにあるマングローブの植林地

へでかけた。現地に到着後、森林局事務所の施業の概要の説明を受け、中型の船に乗って河からマングローブ林を視察した。施業区とともに一部は原生林として保存されていた。このマングローブ林は90年程前から施業が行われており、4万haの広さがある。ほとんどは、伐期30年で回転させている人工林である。植栽されているのは *Rhizophora apiculata* と *R. mucronata* で、おおよそ175トン/haの蓄積がある。伐採されたマングローブは良質の木炭として利用されている。近くの、マングローブの炭焼きをしている工場を観た。1伐採業者が3~4の炭窯を所有していた。

翌2日は、JICAの複層林プロジェクトで有名な、ビドー近くのチクスの苗畑でのフタバガキ科を中心にした約50種の育苗の様子をみた。ここでは、菌根菌の接種、施肥、挿し木、接ぎ木、遮光等の育苗に関する試験が進められていた。複層林施業試験地では、アカシア等の早生樹の列状一部伐採場所にフタバガキ科等の樹種を植栽列の数を変化させて複層林化し成長試験を行っている所を見学した(写真-6)。列状伐採の際に列幅を1, 2, 4, 8,

16列とすることにより、最適な列幅の検討を行っていた。16列伐採地では成長がいずれの樹種でも悪く、1列あるいは2列伐採が最適であった。

昼食後、更にクアラ・ランブルまで南下した。途中ケボングのFRIM構内に人工植栽されて形成されたフタバガキ科樹木のみごとな大木の林を短時間視察して夜行便で成田へ向かった。

4. あとがき

マレーシアでのバイオ・リフォルのワークショップは、しっかりした受け入れ機関のおかげで、無事盛会裡に終了した。近々、講演集もできる予定だ。1995年には、第4回目のワークショップが、IUFRO世界大会に合わせて、その会期中の8月10日に、フィンランドのタンペレで開催されようとしている。さらに1996年にはタイの王立森林局設立100周年、カセサート大学創立60周年を記念してのワークショップが予定されている。

林木遺伝育種アジア-太平洋シンポジウム (S2.02-00)

森林総合研究所 石井 克明

IUFRO (S2.02-00 産地、育種、遺伝資源部会)、中国林業科学研究院、中国林学会、北京林業大学の共催の表記のシンポジウムが1994年10月19日より22日まで北京市内の北西の中国林業科学研究院(写真1~3)にて行われた。中国からの参加者の他、日本、韓国、インドネシア、フィリピン、ブータン、インド、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、フランス、ドイツ、スウェーデン等から計100名以上の参加があった。シンポジウムのテーマは「環境と生産のための林木遺伝育種」で、19日の開会式(写真4)をはじめに、育種理論と戦略、遺伝資源の保全、外来種の導入、産地試験、採種圃、交雑育種、無性繁殖とクローン林業、バイオテクノロジーの部会がもたれ、50件の口頭発表と、約30件の展示発表があった。



写真-2 シンポジウム会場の中国林業科学研究院
林業研究所



写真-1 中国林業科学研究院正門より



写真-3 中国林業科学研究院林業研究所入口



写真-4 開会式での各国代表

中国各地からの発表者による、キリ、ポプラ、コウヨウサン、マンシュウクロマツ、タイワンアカマツ、カラマツ等の育種研究を聞くにつけ、中国の大きさを知らされた。また、Populus deltoides でアグロバクテリアを用いて耐虫性遺伝子を導入していた。中国での組み換え植物の野外植栽の規制について質問したが、明確な回答は得られなかった。どうも、法整備等これからのようであり、いまの所、全く自由に開放系にもってけるようである。

ホテルが一緒だった、オーストラリアのニックルスやニュージーランドのウルクックスは、英語が母国語ということだけでなく、それなりに実績のある育種研究者であるので、シンポジウムでは、終始指導的発言をしていた。彼ら自身による、オーストラリアでの南方マツの交雑育種や、ニュージーランドでのラジアータマツのクローン林業の発表は、有名なものではあったが、改めて興味深く拝聴した。

今回の日本からの発表は遺伝資源部門で1題、バイテク部門で3題あり、若手が頑張って発表したのは評価したいが、いわゆる育種の本流からの参加が少なかったのは残念な気がする。最終日のウルクックスのまとめの挨拶で小生の発表にも多少言及してくれたのはうれしかった。

さて、これより先、10日間は、小生は湖南省にある中南林学院に招待されて、森林バイテクについて講義をしていたので、長沙から飛行機で北京へ18日の夜到着した。空港を出ると、タクシーの客引きがよってくる。無視して、タクシー乗り場を捜すが、時間のせいかタクシーらしい車が見あたらなかった。結局、立ち話を数人

でしていた運転手らしい人に尋ねると、すぐ送ってやるという。変だとは思ったが、夜も更けるし、心細くなったので、多少の出費は覚悟で白タクらしい車に乗ることになった。飛行場を出発して約30分、なかなか目指すホテルが見つからない。運転手も焦っている。途中、自動車専用道路を反対に走ったり、何台か他の車を止めて道を聞くなどして、やっとの思いでホテルに着いた。そこで支払いの段となり、かなりふっかけられたので、交渉してやっと400元にまけさせたが、これでもあとで聞くと普通の3-4倍であるということだった。ホテルのチェックインが済み、予定では会議の参加登録をすることになっていたが、すでに夜も11時近くで、係が帰ったあとだった。仕方がないので、シンポジウムの事務局長に電話をして、到着したことを連絡したところ、翌日の迎いのバスの時間を教えてくれた。19日は、ホテルのロビーでそれらしい人々が大勢待っていて、日本人はこのホテルでは小生だけのようだった。バスの中で初めて別のホテルの育種センターの近藤氏らの一行に会った。

開会式、記念撮影、基調講演、一般発表、懇親会とシンポジウムの運営はままずままずであった。特筆すべきは、最後の晩は何がはじまるのかと思えば、意外にもシンポジウム会場を模様替えしての、ダンスパーティーであった。こちらでは、社交ダンスが盛んで、そういえば毛沢東もワルツが得意であったのを思い出した。

翌日、バス2台でシンポジウム参加者と回った、万里の長城や明13陵では、お互いの交流がはかられた。帰りの日は昼間に空港まで車だったが、高速道路の両端に広がるポプラの植林地(写真5)は印象的だった。

次のシンポジウムは韓国で数年後に開催されることが決まっている。



写真-5 ポプラの人工林

平成6年度 IUFRO-J 機関代表会議報告

表記の会議が、日本林学会大会期間中の4月4日、北海道大学クラーク会館において開催された。出席者はA会員22機関、B会員7機関からの合計29名であった。

<議事>

1. 平成6年度事業報告

事務局より IUFRO-J News の発行と会員の現況が下記のように報告された。

1) IUFRO-J News の発行

No. 52, No. 53, No. 54 (各号 1300 部)

2) 会員の現況 (H7. 3. 31 現在)

A 会員 32 機関 929 名 (前年度より 5 名減)

B 会員 18 機関 24 口 (変わらず)

C 会員 25 名 (前年度より 4 名増)

2. 平成6年度会計報告 (別掲のとおり)

1) 一般会計収支決算報告

2) 特別会計収支決算報告

3) 会計監査報告

監査報告書

平成6年度ユフロ-J事業会計について監査を実施した結果、各種帳簿並びに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成7年3月27日

ユフロ-J 監事

日本林業技術協会 専務理事

小 泉 孟 印

3. 平成7年度事業計画案

1) IUFRO-J News の発行

事務局より例年通り10~16ページ立て3回の発行が提案され、承認された。

4. 平成7年度予算案 (別掲のとおり)

事務局より一般会計の予算案が示され、承認された。

また、8月に開催される世界大会への参加者に対して、特別会計から1人あたり3万円の助成金(他に助成を受ける予定がない会員に限り)を支出することが承認された。

5. その他

池田俊彌氏(森林総研, 海外研究協力官)より、新たに設立されることになった、アジア・太平洋林業研究機関協議会 (APAFRI, Asia-Pacific Association of Forestry Research Institute) に関する経過説明と予定されている活動内容の紹介があった。また、これに続いて同協議会の設立に関わってきた FORSPA (アジア・太平洋林業研究サポートプログラム) のアドバイザーメンバーである小林富士雄氏(日林協)から、設立にいたる詳細な説明がなされた。

この新たな組織の設立は、去る2月20~23日にインドネシアのボゴールで開催された、アジア・太平洋地域森林研究所長会議において決定されたものである。この研究所長会議には、日本からは森林総合研究所の所長代理として池田俊彌氏が参加した。

会議では、APAFRIの設立決定をうけて、議長と副議長および実行委員会メンバーの選出が行われた。氏名、所属は以下のとおり。

議 長: Dr. Suree Bhumibhamon (Kasetsart University, Thailand)

副議長: Dr. Hsu-Ho Chung (Taiwan Forestry Research Institute)

実行委員会委員:

Dr. Virgilio Fernandez (UPLB, Philippines)

Dr. K. M. Siddiqui (Pakistan Forest Institute)

Dr. Kamis Awang (UPM, Malaysia)

Dr. Toshiya Ikeda (Forestry and Forest Products Research Institute, Japan)

APAFRIへの加盟手続きや具体的活動内容などは、7月5、6日に開催される実行委員会において、さらに検討が加えられ最終的結論が出される予定である。活動に関して以下、提案されているのは、1) 研究プロジェクトの実施、2) 出版物の発行、データベースの作成、3) ワークショップ、セミナーの開催、4) 技術移転、および5) 各研究プロジェクトのネットワークングである。次の実行委員会の開催以降に、日本の大学、研究所など関係機関に対して、APAFRIへの加盟要請がくることになろう。

平成6年度一般会計決算

(収入の部)

科 目	予 算 額	決 算	備 考
前年度繰越金	942,103	942,103	
会 費			
5年度未収分	112,000	112,000	
6年度会費	1,075,000	1,016,000	
A会費	935,000	878,000	
B会費	120,000	115,000	
C会費	20,000	23,000	
雑 収 入	2,000	2,328	
合 計	2,131,103	2,072,431	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算	備 考
情 報 活 動 費	700,000	418,592	
会 議 費	100,000	0	
旅 費	600,000	300,000	
雑 費	50,000	8,137	
次年度へ繰越	681,103	1,345,702	
合 計	2,131,103	2,072,431	

平成6年度特別会計決算

(収入の部)

科 目	予 算 額	決 算
定期預金 A	2,734,317	2,734,317
定期預金 B	0	800,000
小 計	2,734,317	3,534,317
定期預金利子	46,483	75,468
普 通 預 金	842,867	42,867
合 計	3,623,667	3,652,652

平成7年度一般会計予算案

(収入の部)

科 目	予 算 額
前年度繰越金	1,345,702
会 費	
6年度未収分	38,000
7年度会 費	1,074,000
A 会 費	929,000
B 会 費	120,000
C 会 費	25,000
雑 収 入	2,000
合 計	2,459,702

(支出の部)

科 目	予 算 額
情 報 活 動 費	700,000
会 議 費	100,000
旅 費	600,000
雑 費	50,000
予 備 費	1,009,702
合 計	2,459,702

平成7年度特別会計予算案

(収入の部)

科 目	予 算 額
定期預金 A	2,809,785
定期預金 B	800,000
定期預金利子	88,000
普 通 預 金	42,867
合 計	3,740,652

これからの研究集会予定 (IUFRO News Vol. 24, No. 1 より)

IUFRO 研究集会

Division 1

S1.02-09 (林地生産力の維持・増進); Planted Forests-Contribution to Sustainable Societies (植栽林-持続的社會への貢献)/Jun 28- Jul 1 (新) 1995, Portland, Oregon, USA

S1.04-02 (雪と雪崩); S1.04-00 (自然災害); S1.05-14 (山岳地域における造林問題); Excursion: Prevention of Natural Disasters and Mountain Silviculture (エクスカーション: 自然災害の防止と山岳地の植林)/Jul 31- Aug 4 1995, Swiss and Austrian Alps

S1.04-00 (自然災害); Erosion Control Engineering Society Japan: Sabo Symposium: Hydrology and Sediment Problems in Volcanoes (Sabo シンポジウム: 火山地帯における水文と堆積物をめぐる諸問題)/Aug 28-30 1995, Tokyo, Japan

S1.05-04 (植物材料の特性); S3.02-00 (造林・保育作業方法); S3.02-01 (造林作業); S3.02-02 (保育作業); S3.02-03 (苗畑作業); Swedish Univ. of Agricultural Sciences; and others: Afforestation of First-Rotation Sites (初回の輪伐区の植林)/Aug 1-6 1995, Garpenberg Sweden, Helsinki Finland

S1.01-05 (景観生態学); Methods of Landscape Ecological Analysis (Postgr. Workshop) (ランドスケープ生態分析の方法)/Sep 11-16 (新) 1995, Ljubljana, Slovenia

P1.10-00 (ブナの育種と造林); International Symposium on Beech (ブナに関する国際シンポジウム)/Oct 1-8 1995, Lviv, Ukraine

S1.07-14 (アフリカの人工林造林); Plantation Silviculture to Protect Natural Forests (天然林保全のための植林)/? 1995, Senegal or Cote d'Ivoire

S1.01-05 (景観生態学); Application of Landscape Ecology to Forest Managment (森林経営へのランドスケープ生態学の適用)/October (新) 1996, Oregon, USA

S1.07-09 (ラテンアメリカの造林); Situation of Conifers in Central America (中央アメリカにおける針葉樹)/? (新) 1996, Honduras

S1.01-05 (景観生態学); Application of Landscape Principles to Integrated Resource Management (総合的資源管理のためのランドスケープの原理の適用)/? (新) 1996, Corvallis, Oregon, USA

S1.05-08 (天然林の更新); S1.07-09 (ラテンアメリカの造林); Harvesting and Silviculture of Natural Forests in the Neotropics (新熱帯地域における天然林の伐採と造林)/? (新) 1996, Costa Rica

Division 2

P2.04-00 (種子問題); Recent Advances in Tropical Seed Technology and Planting Stock Production (熱帯産種子の取り扱いと山出し苗の生産における技術進歩)/Jun 12-14 1995, Haad-Yai, Songkhla, Thailand

S2.02-05 (タグラスファーの産地と育種); S2.02-06 (コントルタ・マツの産地と育種); S2.02-12 (シトカ・トウヒの産地と育種); S2.02-14 (モミの産地と育種); Evolution of Breeding Strategies for Conifers from the Pacific North West (北西太平洋沿岸原産の針葉樹の育種戦略の進展)/Jul 29- Aug 4 1995, France and United Kingdom

S2.02-07 (カラマツの産地と育種); Larch Genetics and Breeding (カラマツの遺伝因子と品種改良)/Jul 31- Aug 4 1995, Umeå Sweden

S2.05-06 (植物の抵抗性機構); Bark Beetles, Blue-Stain Fungi and Conifer Defence Systems (キクイムシ, 青変菌および針葉樹の防御機構)/Jul 31- Aug 2 1995, Ås, Norway

S2.05-06 (植物の抵抗性機構); Joint Nordic Forest Entomology Field Trip (北欧の森林昆虫に関する合同現地見学)/Aug 2-5 1995, from Oslo, Norway to Tampere, Finland

S2.06-02 (針葉樹の胴枯れ・枝枯れ病); S2.06-04 (葉の病害); Pre-Congress Meeting on Forest Pathology (森林病理学に関する予備集会)/Aug 4-6 (新) 1995, Korkea-Koski, Finland

S2.02-10 (ポプラの産地と育種); University of Washington: Poplar Biology-Its Implications for Management and Conservation (ポプラ生物学-管理と保

- 全)/Aug 20-25 1995, Seattle, Washington, USA
- P2.04-00 (種子問題); Innovations in Tropical Tree Seed Technology (熱帯産樹木の種子の処理に関する新たな技術)/Sep 7-16 1995, Arusha, Tanzania
- S2.04-07 (体細胞遺伝学); S2.04-06 (森林樹木の分子遺伝学); Somatic Cell Genetics and Molecular Genetics of Trees (樹木に関する体細胞遺伝学と分子遺伝学)/Sep 26-30 (新) 1995, Gent, Belgium
- S2.01-15 (固体レベルの植物生理学); Boyce Thompson Institute for Plant Research, USEPA Environmental Research Lab at Corvallis: Dynamics of Physiological Processes in Woody Roots (樹木根茎の生理学的動態)/Oct 8-12 (新) 1995, Ithaca, New York, USA
- S2.07-09 (苗畑の病虫害); Diseases and Insects in Forest Nurseries (樹木苗畑の病虫害)/July or August (新) 1996, Gainesville, Florida
- S2.07-01 (球果・種子害虫); 5th Working Party Conference (第5回ワーキンググループ集会)/Sep 2-7 (新) 1996, Bondone, Trento, Italy
- S2.06-01 (根腐れ・根株腐朽病); Root and Butt Rots (根茎と根株の腐病)/? Aug (新) 1997, Nancy (?) France
- Division 3
- S3.02-03 (苗畑作業); S1.05-04 (植物材料の特性); Swedish Univ. of Agricultural Sciences; Private Forest Management Assoc., Finland: Afforestation of First-Rotation Sites (初回輪伐区の植林)/Jul 31- Aug 6 1995, Garpenberg Sweden; Helsinki, Finland
- Division 4
- S4.11-03 (情報管理); S6.03-00 (情報システムと用語); EFI: Internet Applications and Electronic Information Resources in Forestry and Environmental Sciences (林業および環境科学におけるインターネットの応用と電子情報資源)/Aug 1-5 (新) 1995, Joensuu, Finland
- S4.04-02 (経営経済学); Cost and Results Accounting, Profit and Loss Accounting & Controlling (成果とコストの会計, 利益と損失の会計および制御) /Aug 7-12 1995, Tampere, Finland (World Congress)
- S4.01-00 (測定・成長・収穫量); Modelling Forests in a Complex Environment (複雑な環境下の森林のモデリング) /Aug 7-12 1995, Tampere, Finland (World Congress)
- S4.02-01 (熱帯における資源データ); International Society of Tropical Foresters: Resource Inventory Techniques to Support Agro-forestry Activities (アグロフォレストリーのための資源調査)/Oct (post-ponement) 1995, Palampur Himacmal Pradesh, India
- S4.02-00 (森林資源調査とモニタリング); ICRAF; ISTF: Non-timber Forest Products: Assessment, Monitoring, Development and Marketing (木材以外の森林産物: 評価, モニタリング, 開発とマーケティング)/Feb 19-23 1996, Nairobi, Kenya
- S4.01-00 (測定・成長・収穫量); Modelling Early Growth of Forest Stands (林地の初期成長のモデリング)/May or June (新) 1996, Denmark
- S 4.01 - 00 (測定・成長・収穫量); Effects of Environmental Factors on Tree & Stand Growth (環境因子が樹木と林分成長に及ぼす影響)/Sep 23-27 1996, Dresden, Saxony, Germany
- S4.02-02 (多目的資源調査); ISTF: How to Gather, Evaluate, and Use Ethno-biological Data (民族生物学に関するデータの収集, 評価と活用)/? 1996, Thailand
- Division 5
- S5.01-04 (木材特性の生物的改質); Working Party Workshop (ワーキングパーティー研究集会)/Aug 24- Sep 1 1996, Kruger National Park, South Africa
- Division 6
- S6.03-00 (情報システムと用語); S4.11-03 (情報管理); EFI: Internet Applications and Electronic Information Resources in Forestry and Environmental Sciences (林業および環境科学におけるインターネットの応用と電子情報資源)/Aug 1-5 (新) 1995, Joensuu, Finland
- IUFRO, CIFOR, EFI (satellite meeting of XX IUFRO World Congress): Forest Policy Analysis (森林政策分析)/Aug 10 (新) 1995, Tampere, Finland
- S6.06-04 (造林学の教育および研究); Meeting of Silviculture Professors (造林学教授による集会)/Sep 4-9 (新) 1996, Portugal/Spain

Other Meetings

Forestry and Game Management Research Institute, ECE Timber Committee, FAO European Forestry Commission : Forest Seed Collection, Treatment and Storage (樹木種子の収集, 処理および貯蔵)/Jun 4-8 1995, Opocho, Czech Republic

European Forest Institute : Multiple Use and Environmental Values in Forest Planning (森林計画における多目的価値および環境的価値)/Jun 5-10 1995, Tohmajärvi, Finland

European Forest Institute : Int'l Course : Assessment of Biodiversity (国際的取り組みの方向: 生物多様性の評価)/Jun 12-17 1995, Koli, Finland

Indian Institute of Forest Management, Bhopal, India : Integrated Watershed Management (総合流域管理)/Jun 14-17 1995, Bhopal, India

European Forest Institute(EFI), Finnish Forest Research Institute : Large-scale Forestry Scenario Models (大規模林業のシナリオのモデル)/Jun 15-22 1995, Joensuu, Finland

Hungarian Academy of Sciences : Environment and Informatics (環境と情報科学)/Jun 29- Jul 1 1995, Budapest, Hungary

Oxford Forestry Institute ; International Institute for Environment and Development ; SGS Forestry : Making Forest Policy Work (森林政策の役割の実効化)/Jul 3-7+10-28 1995, Oxford, U.K.

International Boreal Forest Association, EFI, Finnish Forest Research Institute, SILMU, University of Joensuu : Climate Change, Biodiversity & Boreal Forest Ecosystems (気候変動・生物多様性および北方林の生態) /Jul 30- Aug 5 1995, Joensuu, Finland

TEMPUS Project, Slovenian Forestry Institute : Bioindication of Forest Site Pollution (林地汚染の生物指標)/Aug 22-31 1995, Ljubljana, Slovenia

Forest Research Institute of Malaysia : Sustainable Forest Management and Commercialization of Research and Development (持続可能な森林経営と研究, 開発の商業化)/Oct 3-4 1995, Kuala Lumpur, Malaysia

ICSU : ICSU Forum on Earth System Research (地球系システム研究に関する ICSU フォーラム)/Oct 22 1995, Beijing, China

Indonesian-German Forestry Project, Faculty of Forestry, Mulawarman University, GTZ : Soils of Tropical Forest Ecosystems (熱帯の森林生態系における土壌) /Oct 29- Nov 3 1995, Balikpapan, Kalimantan, Indonesia

USDA Forest Service : Fire Management and Natural Resource Development (火災の制御と天然資源開発)/Nov 5-11 (新) 1995, Guadalajara, Mexico

Technical University of Zvolen, Faculty of Wood Technology : Wood and Fire Safety (木材と防火) /May 6-9 (新) 1996, The High Tatras, Slovak Rep

Colorado State University, USDA Forest Service : Spatial Accuracy Assessment Conference (空間的精度評価に関する会議)/May 21-23 1996, Fort Collins, Colorado, USA

ユフロ活動協力基金による助成募集の結果について

ユフロ活動協力基金運営委員会事務局

IUFRO-J News No. 54 誌上において「ユフロ活動協力基金による助成募集」を実施しましたところ、下記の応募件数が寄せられました。

第20回国際林業研究機関連合世界大会研究集会
13件

上記の応募案件について5月10日のユフロ活動協力基金運営委員会で慎重審議をいたしました結果、助成対象者として次の方々に決定しました。

(順不同、敬称略)

- 北川勝弘 (名古屋大学農学部) : 循環型林道網の系統的配置法の基本思想
- 芝 正巳 (三重大学生物資源学部) : DEA 解析法を導入した収穫作業における経済的・技術的効率性の測定
- 山田容三 (森林総合研究所) : 日本の間伐作業におけるハーベスタの操作性; 日本の林業労働者の腰部負担
- 高田克彦 (九州大学農学部) : ニホンカラマツにお

ける木材特性の地理的変異—遺伝子型、表現型いずれの選抜が有効か?—

- 野淵 正 (京都大学農学部) : アガチスにおけるあて材の組織構造
- 石井克明 (森林総合研究所) : 遺伝子銃を用いた数種の林木の遺伝子組み替え
- 山口岳広 (森林総合研究所) : *Ceratocystis piceae* を接種したニホンカラマツの解剖学的変化; 大雪山系における40年間の腐朽被害の傾向
- 近藤 稔 (名古屋大学農学部) : パネル質量系モデルによる軽架線集材時における労働学現象の研究; 日本の民有林における林道評価要素の抽出
- 岩本純一 (愛媛大学農学部) : 地域における共有資産としての森林
- 佐々恭二 (京都大学防災研究所) : 急地滑り動態の予測

ユフロ-J からのお知らせ

フィンランドで開催される世界大会への参加助成の対象人数がほぼ固まりました。5月下旬の申し込み締め切りまでに、約50名の申請がありました。今回のフィンランド大会への参加助成は、ユフロ-J 特別会計予算から支出されることになります。なお、同会計の予算規模に鑑み、他の助成が確定した方については、ユフロ-J からの助成は遠慮していただくことになります。申請者が多数

のため一人当たりの額が僅少になることをご了承下さい。

申請者への助成金の払い込みの手続きは、7月初旬に行う予定ですので、中旬を目途にご確認をお願いいたします。万一、未入金の場合にはご一報下さい。受領書は必要ありません。世界大会に参加予定の会員の皆様にとり、意義深い大会参加になるようお祈りいたします。

IUFRO-J News No. 55

平成7年6月15日

(編集・発行)

国際林業研究機関連合日本委員会事務局

茨城県稲敷郡基崎町松の里1 森林総合研究所内

TEL 0298-73-3211 (232)